

「かわとはきものギャラリー」のご案内

東京都立皮革技術センター台東支所

施設の概要

都立皮革技術センター台東支所は、都内の皮革・靴はきもの関連産業の振興を図るため、試験・研究・相談・支援事業を実施している機関ですが、各種履物の展示や書籍の閲覧・貸出を行っているギャラリーを設置しています。

土曜、日曜、祝日、年末年始を除く毎日午前9時00分から午後5時00分まで開館しておりますので、ぜひご覧ください。

主な展示品

- (1) 日本のはきもの－わらじ、ぞうり、高下駄（足駄）など－

湿度が高い日本の気候に適した履物として、わらじとぞうりが発達しました。

下駄は、農耕の道具として使われた田下駄のほか、足の保護などのためにさまざまな工夫がされ、日常生活の中で定着してきました。



写真1 上から高下駄、ぞうり、わらじ

- (2) 伝統文化とはきもの－祇園舞妓のおこぼ、道中下駄、茶会草履など－

江戸時代には、特に町人文化の花が開き、履物も多種多様の展開をみせました。

日本の伝統文化のひとつを象徴する履物



写真2 上から道中下駄、おこぼ、茶会草履

の形は、この時代にほぼ完成したといえます。

- (3) 信仰とはきもの－さしかけ、板草履、湯屋下駄など－



写真3 上からさしかけ、板草履、湯屋下駄

信仰と深く結びついている履物もあります。さしかけ（差懸）は奈良の東大寺お水取りの行事の履物で、音をたてて邪気を追い払うものです。湯屋下駄も、お水取りの際に修行層が沐浴をするときに履きました。若水をくむ時に用いられたのが板草履です。

- (4) 世界のはきもの－木靴、てんそく（纏足）靴（中国清代）、貴族の靴（13世紀フランス）など－

世界各地のいろいろな時代のはきものには、それらを生み出した自然環境、歴史、人々の生活スタイルや暮らしの知恵が現れています。



写真4 上から木靴、貴族の靴、てんそく靴

- (5) 戦争とはきもの－旧日本陸軍の編上靴、旧日本海軍の水兵靴など－

わが国の皮革産業は軍用品の生産を契機に飛躍的に成長しました。過酷な戦地においては丈夫な革製の軍靴や背囊（はいのう）が必需品であったことは容易に想像できます。



写真5 上から編上靴、水兵靴

- (6) 現代のはきもの－紳士用革靴、婦人用革靴、ミュール、サンダルなど－

2004年～2005年秋・冬物、2004年春・夏物の主として外国製の履物を展示しています。靴の流行の最先端が一見してわかります。



写真6 2004～2005年秋・冬物

- (7) 手縫靴の工程

現在では靴のほとんどは機械によって作られていますが、製法の基本は手作業による靴作りにあります。

当ギャラリーではグッドイヤーウェルト製法による手縫靴の製作工程を実物によって展示しています。



写真7 手縫靴の製作工程